



ゆとりある自我

「私はステキでしょ?」「オレって、まんざらでもないだろ?」と自分でも思い、他者にも思われていたい気持ちは、自我が誕生した1歳半前後から、育ちの基本にありました。しかし、そのためにどうふるまうのかは、年齢に応じて変化してきました。

3歳までの自我は、「自分を尊重してほしい!」という気持ちが前に出ていたため「強情」「ワガママ」「反抗」という姿をとりました。3歳児クラスになると、自分を信じるがゆえに天真爛漫で明るく笑いの絶えない姿となりました。4歳児クラスでは、自分をふりかえるけれどふりかえり方が未熟であるために、おとなに「いい子」と思われたいから無理な努力をしたり、ダメな自分を感じて思いつめた表情をすることもありました。

では、自分で判断する力が育ち、事実で確かめて考えられるようになった5歳児クラスの子どもは、どのような自我を持っているのでしょうか。ゆとりある自我。一言で言えば、そうなると思います。

運動が苦手なAくんは、4歳児クラスのときは、鬼ごっこやドッジボールのまねごとなどの運動あそびには、絶対に参加しませんでした。みんなであそぶのが嫌いなのではなくて、鬼ごっこをしたらすぐにつかまってしまう、ドッジボールをしても負けてしまうと感じるからです。4歳児クラスのころは、まちがえられてつかまえられることがないように、わざわざ先生のところにやってきて、「Aちゃんは、やってないからね」と念を押すほどでした。5歳児クラスの後半から、姿が変わってきました。自分は運動は苦手だけど絵は好きだ、ピカピカの泥団子もつくったことがある。実績に裏づけられて、自分を認める気持ちが育ってきたようです。12月のある日、Aくんがドッジボールにはじめて参加しました。そのときの言葉がステキです。「ぼくとか、女の子はさ、あたらないように逃げるってというのはどう?」自分が苦手であることを素直に受け入れ、そして、それが卑屈さになっていません。素直に自分の弱点も認めることによって、Aくんは逆にゆとりを持ち、自由になっています。

子どもたちはたくさんのステキな個性を持っています。得意なことも苦手なこともある。

それらを引き受けて、そのうえで自分を認めることができる。5歳児クラス終盤の自我は、そこまで育っています。

育ちのきほん 神田英雄 著 ひとなる書房

◎11月のさくらんぼ教室のお知らせ◎

さくらんぼ①: 11月13日(木) 13:00~

さくらんぼ②: 11月27日(木) 13:00~

活動・・・山登り

持ちもの・・・帽子、水筒、動きやすい服・動きやすい靴

※保護者の方も動きやすい服装でお願いします

参加される皆様へ』~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費はおやつ代100円です。製作やクッキングの活動の時には、材料費として追加で100円いただきます。その都度連絡いたします。
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意してください(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください